



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会
2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504 Fax: (310) 323-6737

11月号会報

2012年(平成24年) 11月 1日(木)

NO. 135

南カリフォルニア倫理の 会会員の皆さんへ

倫理研究所 野中寛治
南カリフォルニア倫理の会の皆さん、その後もお元気にてお過ごしのことと思います。九月の出張の折には大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

皆さん方とお会いするのは、二〇〇六年六月の講演会以来六年ぶりでしたが、お元気にて活躍されているお姿を拝見し、とてもうれしく思いました。短い滞在期間でしたが、とても充実した時間を共有することが出来て、そして何より皆さん方の温かいお心づかいに大変感激しました。

二〇一三年度の役職を引き受けてくださった役員の前にも、心よりお礼申し上げます。辞令交付式での、川田薫会長の熱意あふれる所信表明、三名の役員の力強い決意表明をうかがい、南カリフォルニア倫理の会のこれからの発展を確信しました。

朝の集いの充実と活性化、諸活動を通しての日系コミュニティへの貢献、広報活動

の積極的推進、オープンな組織の構築、愛和の精神を基盤とした倫理の普及、などの目標が一つ一つ確実に実現していくことを心より願っています。役員の皆様方、この一年間どうかよろしくお願ひします。ご活躍を祈念いたしております。

現在私は、倫理研究所の「研究センター」に所属し、月刊誌『倫理』の発行、純粋倫理の実践事例や理論の研究、内外の倫理思想や倫理文化の専門的研究などの業務を推進しています。これからも、会員の皆さんの学びや実践に役立つ研究を推進し発信していきます。

皆さん方の奉仕の精神による真心からの普及活動に心より感謝しています。共に尊び合い、自他共に幸せになる社会作りを目指して雄々しく前進してまいります。またお会いできる日を楽しみにしています。皆さん、どうかどうかお元気で。そしてお幸せに。



南カリフォルニア倫理の 会を訪れて

文化部 矢口裕司

朝夕の風がいよいよ秋らしく、肌寒くも感じるようになりました。皆さんいかがおすごしでしょうか。私はロスアンゼルスを担当させていただくことになりました。文化部担当の矢口裕司です。ロスアンゼルスの方々の想い出に浸りながら、今この文章を書いています。

今回私がアメリカ本土に足を踏み入れたのは初めてであり、久しぶりの海外もあってか、とてもワクワクしておりました。皆さんの前で倫理のお話をさせていただくことも初めてで、ワクワクの気持ちとは裏腹に緊張の連続でした。

秋津書道会・しきなみ短歌会の支苑活動を拝見し、皆さんが熱心に文化活動に取り組みられている様子に心打たれました。日本と離れてはいても、しっかりと日本文化に触れようとする姿にただただ感動いたしました。

倫理セミナーでは、多くの方に出席していただき、心から感謝しています。私のつた

ない講話に耳を傾けていただき、それでもともに純粋倫理を学びあえたことは、とても意味のあるものだったと感じております。私たちの日常生活の中には、いつでもどこでも純粋倫理が存在しています。「気づく力―直観力を磨く―」と題してお話させていただきましたが、ぜひ日々の生活の中で心動かされる瞬間を見つけていただきたいと思います。感動する心を養い、ともにうるおいとハリのある暮らしを送ってまいります。また皆さんとお会いできる日が待ち遠しいです。心より楽しみにしています。

十一月

鶴川文字専任講師(出張)

三日(土) 午前十時～

会員研修会

四日(日) 午前八時半～九時半

会員総会

午前十時～十一時半
倫理セミナー
「仲良く楽しく暮らしましょう」

午後三時～四時
子育てセミナー

会員勉強会

九月二十二日（土）午前十時から十二時まで会員勉強会がありました。

野中寛治理事が六年ぶりで来米されました。昔からおられる倫理のメンバーたちに懐かしそりに挨拶されていました。

先生は倫理の根本とは何か？誓いの言葉の「今日一日朗らかに安らかに喜んで働きます」を取り上げ、その心は生活と一分、一秒も離れない働くときの心構えを倫理というと申されました。不自然な心、怒り、ねたみ、わがままな心・・をなくして、はーはつらつ、たーたのしく、らーらくらく、きーきびきびとしなくてはいけないこと。私たちが毎週読んでいる万人幸福のしおりの説明も時間の許す限りでされ今更ながらその意味を知り、その奥の深さを知らされ更に学ぶ意欲が掻きたてられました。

（出席者十六名）

（なぎ川記）

講話 「万物生々」

九月二十三日（日）野中寛治理事を六年ぶりにお迎えし朝の集いを行いました。

まず自己紹介をされ、どのような経過で倫理研究所に入所されたかを話された。

「万物生々」の講話に入り、地上に存在している全ての物は何かの働きがあり、生かされている。働きがあるゆえ生きていくのである。「和顔愛語」笑顔で相手に接し優しい言葉かけをするだけで相手の心が和む。それだけでもその人は立派な働きをしているのである。

何かが生活に起こった時、物を雑に扱っていなかったかと自分を振り返ってみることが大切であると話された。

金銭を請求するのを卑しい事のように思うが、請求するべき金銭を妥協なく要求することは生活にはつきりと筋道を立て、余計なこだわりの無いすっきりとした生活が送れる。二宮尊徳先生のたらいの水の例話のように、欲を起こして水を自分の方にかきよせると向こうに逃げる

人のためにと向こうに押しやれば、我がほうにかえる。何事も人のためにと先に差し出す事が秩序であると話された。

理事は笑顔を絶やさず優しく講話をして下さり和気藹々と話し合うなか終了いたしました。何時の日かまたお目にかからせて頂ける事を楽しみにしております。（出席者三十一名）

（梅本和子記）

懇親会

九月二十三日（日）午後十二時半より野中寛治理事をお迎えして懇親会を開きました。

ポットラックで会員自慢の料理がテーブルにあふれるほど並び、和やかな楽しい時間を過しました。最後は川田薫会長の三本締めで今年度の会の発展を願ってお開きとなりました。

ガレッジセール

十一月十七日、十八日に門園美枝子班長宅で行います。売り上げの半分は「りんりん基金」ですからご協力を御願いたします。

倫理セミナー

十月十四日（日）倫理オフィスにて、矢口祐司専任研究員によるセミナー、「気づく力ー直観力を磨くー」が行われた。参加者はモーニング・セミナーで教わった熱血拍手で、矢口先生を迎えた。直観力とは、気づく力。これを育てる為に即行を実践してゆくと良い。

早起きがその一番の方法である。大自然に生かされ、自分が今あることへの感謝の念を感じられ、謙虚な姿勢になれると、純情（すなお）な心が持て、それが直観力を研ぎ澄ませることに繋がってゆく。明朗、愛和、喜働の実践でも純情、直観力が備わってゆく。若い頃に、いくらでも眠りたいと思っていたご自分が眠り続けるなんて勿体無い・・と思つたエピソードや、即行の為の返事の練習、また被災地の宮城をこれまで三度訪れた折々の心の様子などを盛り込みながら、熱心に語られた。参加者二十七名

（草野律子記）

しきなみ短歌会

十月十二日（金）午後七時～午後九時、倫理オフィスに於いて矢口祐司文化部専任研究員を迎え、第二百二十二回の短歌会が催された。

短歌はその時の状態をそのままに使い、三十一文字の中に感動を詠みこばねばなりません。

そうすることは余分なことを捨て去って、複雑なものを単純化する。そして感動の核をしつかりと捕らえることが大切で、一首の中に詠み込む感動は一つだけです。そうしたことによつて短歌の感性が磨かれる。そしてじつと見つめる事が大切で、チャンスをつかむ事、又苦しみ悲しみに出会った時、歌によつて幸せになり、苦しみを転じて福となることもありと、一首一感動について話されました。

高点歌 ホン史子

末枯れたる葉かげの真赤なミニトマト一個が夏の終わりを告げる

この歌に「見上げてごらん夜の星を」の節で歌われましたが、声のすばらしさと共に短歌が、

このように変わるものと、皆感心いたしました。又自分の歌にもそれぞれに合った歌を、見つけて歌ってみて下さいと言われ、とても楽しい歌会でした。

出席者十一名

（長谷川松子記）

朝の集い

十月十四日（日）本部より、矢口裕司専任研究員をお迎えし、モーニングミクスサーが開かれました。

自己紹介の後「朝の講話は初めてなので勉強して来ました。」とニコニコしていわれ、東京からご出張の若い先生は「明るく、すなおに倫理を実践されている」印象をわたくしたちに与えてくれました。一方通行のお話をできるだけでなく、目を使つても理解できるように要点を表と裏にぎつしり書いたレジュメを用意してきてくださり、聞き漏らした部分、復習などのときに役立ちます。

人間、困ったときは「しおり」（万人幸福の葉）を開いてみると必ず「解決の糸口が見つかる」と強調されました。

さらに矢口講師は私はこの十四条の「心即太陽」（希望は心の太陽である）が好きであると発言しました。つまり人間の原点だからです。そしてあの太陽の光と温熱が無限であるように、希望はいくらともしても尽きることがないからです。こんなにすばらしい南カリフォルニアに住んでいる私たちにとつてもほんとうにそのとうりです。

（大竹信雄記）

秋津書道

十月十三日（土）午後一時～三時、本部より矢口裕司専任研究員を迎えて、倫理オフィスに於いて開かれました。

いつもどうり滝川歌子先生が先導して書道箴言（しんげん）を全員で声を出して読むことから始まりました。最初のことから始まりました。最初の文章「練習は必ず日に一度、ずぼらは向上の敵である、」のところを大きい声を出して読みあげるときはあまり練習

をしない私にとっては気が引けていました。読み終わってすぐ日本からの若い矢口裕司先生は、日ごろ忙しくて筆を持つ時間がない人でも「このように空中に手で書いて練習できます。」といわれたときは、「ああ、それなら毎日出来そうだ。」と思ひ、何か後ろめたい気持ちから解放されました。

全員が起立して右手を前方に向けて伸ばし、目の前の空間に先生のおっしゃるとうりに手を縦、横、斜めに動かして起筆、収筆、払いなどの空中練習ができました。習字道具の出し入れや後片づけでも相当な時間がかかりますしその省略ができる便法を知るとは有難いことです。

すばらしい作品をいつも書いている 咲田静子さんがこれからは高等部に昇級されることになり、日本からの証書を授与されたことは喜びの一つでした。

十一月の競書では楷書、行書、草書のそれぞれの課題手本を書いてくださり、さらにお正月の新年課題も半切に書いて下さいました。十二歳からはじめて、

もう十八年練習を積み重ねているわけですが、なにか血統のよさが体全身の動きから垣間見られました。

筆運びの速いことには驚きでした。先輩の梅本さん、堀井さんらは見分けのつけがたい部分、折り返しの点なのか収筆なのかの質問ではテキパキと分解説明されていました。そして最も印象に残ったことはあの太い三号の筆で小さな細かい字から、お正月用の”寿者福の首(はじめ)”までの大きな字まで書いてくださったことでした。

おめでとぅらうけします

『しきなみ』十月号

- 入選 松永典子 群螢集（東京）
- 入選 長谷川松子 々（々）
- 入選 伊澤潤子 飛雲集（西東京・海外）

『秋津書道』十月号（競書）

- 一席 滝川政和 人の部（東京）
- 三席 梅本豊造 高等部（東京）
- 入選 堀井幸江 々々
- 三席 咲田静子 一般部（東京東部） 草書
- 入選 羽島照子 々（々） 々
- 二席 竹内康子 一般部（東京東部） 行書
- 入選 前田グレース 々（々） 々
- 々々 榊中恵美子 々（々） 々
- 八席 小倉治美 々（東京） 楷書
- 入選 脇山由希 々（々） 々
- 々々 佐藤いずみ 々（々） 々

た。

でも私には熟年先生の滝川ご夫妻からまだまだ学ぶことがありすぎることも承知してまます。（大竹信雄記）

懇親会

十月十四日（日）十二時より矢口裕司講師を囲みたのしい懇親会が開かれました。今回は中華料理がメインのごちそうでした。楽しい食事の後、ひとりひとりが自己紹介となりました。いつも見慣れて知っていると、思ってた会員なのにそのかれらの倫理での経験談やら体験、実践している発言に新しい発見があり感動しました。

はじめて来米されたという矢口先生は二十九歳の若さの中にも落ち着いたはなしぶりと内容に皆さんの心を打つたようでした。英語も流暢なのでこれからの訪米を楽しみにしてロスの倫理に若いかぜを送り込んでいただきたいものです。（出席者二十二名 榊川記）

しきなみ短歌

- 紫陽花の色のあせゆく昼下がりに山田五十鈴の訃報を知りぬ 門園美枝子
- 末枯れたる葉かげの真つ赤なミニトマト 一個が夏の終わりを告げる ホン史子
- 病む夫に生きる力をくれる孫よくぞ生れたり高らかに泣け 松永典子

裏庭に夫と二人の夕食会ワインにほろ酔い星を数える 草野律子

「ありがとう」術後の夫はうわ言を呼吸も弱く再び寝る 摺木洋子

晴れ渡り清清しき日に凜と立つタチアオイ 見て背筋を伸ばす 松元依子

お琴弾く弁天様の壁画みて夢かまごう毘沙門堂 大川敏子

朝空に稜線くつきり描かれてまさに朝日の昇らんとして（マンモス） 滝川歌子

とし毎に新芽のび来て裏庭に葎の花咲き満開となる 奥本洋子

九本のキャンドルを吹く孫の笑み亡き嫁に代わり見守れる幸 杉野和子

つるつるとのど越しの良きソーメンは青じそ茗荷と日本の味覚 長谷川松子

恩人に貯めた砂糖でケーキ作るアンネの事を今年も思う 塩出笑子

近所から笛やたいこの音が聞こえ想い出される祖国のまつり 橘高比呂美

初摘みのみようがの香り食卓に涼しさ添える真夏日の午後 伊澤潤子

骨折の妻といっしょに行動す二人三脚夫婦の姿 梅本豊造

骨折し「退屈でしょう」と友人等寄り合ってくれて話題の溢る 梅本和子

十和田湖の水滔々と流れいる奥入瀬をゆく秋の盛りに 伊勢田豊

足止めて仰ぐみ空の蒼蒼と心に沁みて深く澄みおり 矢口裕司